

「月がとっても青いから」

進路指導部主任 氣仙 祐禎

本稿は5月1日発行の『進路通信』ですが、三高は1926年（大正15年）5月1日の「三本木町立三本木実科高等女学校開校式典」から今年2026年が100周年です。その“開校”1年後の1927年に現十和田市に生誕され、『NHK紅白歌合戦』の初回（第1回 1955年）の最初の歌唱者となった歌手の菅原都々子さんの1955年の大ヒット曲『月がとっても青いから』の冒頭の一節に「月がとっても青いから遠回りして帰ろう」があります。歌詞の解釈は聞き手にもいろいろあるようですが、「月明かりが美しいこの景色を長く見るために遠回りして帰ろう」ということかと思いません。

実際の月が青く輝く、ということはないようですが、「ブルームーン」は今年2026年5月に見られます。「ブルームーン」とは、「めったにない」という意味の「once in a blue moon」に由来する、特別な条件で現れる満月の呼称で、一ヶ月に2回満月が見られることを言い、今年はその5月1日（日本時間では5月2日2時23分）の次の5月31日（日本時間は19時4分）に2回目の満月が見られるようです。次のブルームーンは、2年半後の2028年12月31日で、大まかにいえば3年後です。三高も100周年という100年の年月のなかで、次のブルームーンまで約3年、というのは、人生100年時代の高校での3年間ということに重ね合わせてみたくはなりません。

「遠回り」といえば、「遠道は近道」という言葉もありますが、「近道」といえば、「王道」の意味の「Royal Road」があり、「There is no royal road to learning」の「学問に王道（近道）なし」という言葉があります。高校3年間という貴重な時間での学業を中心としてのしっかりとした取り組みが、進む先としての針路（進路）に通じて行くようにも思います。

菅原都々子さんの父で同じく現十和田市ご出身の陸奥明氏の作曲によるその『月がとっても青いから』は、本校OBでシンガーソングライターの桜田まこと氏の2018年のニューヨークのカーネギーホールでのコンサート出演の際に桜田さんの歌唱にて披露されており、海を渡った楽曲ともいえます。海を渡るといえば、「我、太平洋の架け橋とならん」と述べた新渡戸稲造氏（三本木原開発に尽力された新渡戸傳氏の孫で、五千円札の肖像にもなった）は、1900年にニューヨークで『武士道』を刊行しています。

十和田市、三高、ゆかりの方々の足跡やそれに関わることに思いを馳せるとき、高校3年間を含めた人生100年時代のそれぞれの指針や道しるべやマイルストーン（中間目標）のヒントがうかがえるように思えます。それぞれの針路を見据えて、この大事な高校3年間の時間を、遠回りのように思えても、自分にとっての特別なことが起きることへ向かって、大事に過ごしてほしいと思います。

新渡戸氏が入学した札幌農学校（現北海道大学）に副校長であったクラーク博士が新渡戸氏入学前の1877年に日本を離れるときに教え子へ語った言葉が、「Boys be ambitious, like this old man」でした。

令和7年度卒業生 国公立大学合格者104名

大阪大学1名 ・ 東北大学2名 ・ 北海道大学1名 ・ 東京外国語大学1名

国公立大学 ()は附属中学校出身者内数

| 大学 | 人数 | 大学 | 人数 | 大学 | 人数 |
|--------|-------|-------|------|---------|------|
| 北海道大 | 1(1) | 宇都宮大 | 4(3) | はこだて未来大 | 1(0) |
| 北教大釧路校 | 2(0) | 群馬大 | 2(1) | 釧路公立大 | 1(0) |
| 北教大札幌校 | 2(1) | 埼玉大 | 6(4) | 名寄市立大 | 1(1) |
| 北教大函館校 | 4(0) | 千葉大 | 1(1) | 青森県立保健大 | 8(1) |
| 室蘭工大 | 1(0) | 電気通信大 | 1(0) | 青森公立大 | 5(0) |
| 弘前大 | 15(6) | 東京外大 | 1(1) | 岩手県立大 | 2(1) |
| 岩手大 | 6(1) | 東京学芸大 | 1(1) | 宮城大 | 2(0) |
| 東北大 | 2(1) | 東京農工大 | 1(1) | 秋田県立大 | 1(1) |
| 宮城教育大 | 2(1) | 新潟大 | 2(0) | 高崎経大 | 3(0) |
| 秋田大 | 3(2) | 山梨大 | 1(1) | 東京都立大 | 1(0) |
| 山形大 | 5(4) | 信州大 | 3(0) | 横浜市立大 | 3(1) |
| 福島大 | 2(0) | 大阪大 | 1(1) | 都留文科大 | 3(2) |
| 茨城大 | 4(2) | | | | |

国公立大学合格者数 104名(40名)

主な私立大学

| 大学 | 人数 | 大学 | 人数 | 大学 | 人数 |
|-------|------|------|------|-------|-------|
| 早稲田大 | 3(1) | 法政大 | 3(2) | 同志社大 | 1(0) |
| 青山学院大 | 2(0) | 日本大 | 5(2) | 立命館大 | 2(0) |
| 中央大 | 3(1) | 芝浦工大 | 4(1) | 東北医薬大 | 4(0) |
| 明治大 | 2(1) | 東洋大 | 4(4) | 東北学院大 | 17(4) |

私立大学合格者延べ人数 188名(55名)

先輩からのエール！

進学先：弘前大学__人文社会科学部__文化創成課程（総合型選抜）

1. 学校生活について

| 項目 | 1年生 | 2年生 | 3年生 |
|--------------|------------------------|-----------------------|--------------------|
| 進路志望の推移 | 弘前大学 教育学部 | 弘前大学 人文社会科学部 | 弘前大学 人文社会科学部 |
| 部活動・生徒会活動 | 硬式野球部 | 硬式野球部 | 硬式野球部 |
| 起床・就寝時間(平日) | 起) 6:00 就) 23:00 | 起) 6:00 就) 23:00 | 起) 5:30 就) 1:00 |
| 起床・就寝時間(休日) | 起) 6:00 就) 23:00 | 起) 6:00 就) 23:00 | 起) 6:00 就) 1:00 |
| 授業外の学習時間(平日) | 1時間 | 3時間 | 4時間 |
| 授業外の学習時間(休日) | 1時間 | 3時間 | 7時間 |
| 平均睡眠時間 | 7時間 | 7時間 | 5時間 |
| 塾・家庭教師の利用 | 無 | 無 | 無 |
| 通信添削の利用 | 無 | 無 | 無 |
| 得意・不得意科目 | 得) 国語、歴史総合 不) 数学、英語 | 得) 国語、日本史 不) 数学、英語 | 得) 国語、日本史 不) 数学 |

2. 志望校について

私は高校入学前から社会科教員になりたいと考えていたため、当初は教育学部を目指していました。しかし二年次の日本史の授業で日本美術などの文化財の魅力に触れて、歴史の分野をより専門的に学び、歴史をより魅力的に伝える能力を身に付けたいと考えるようになりました。そのため歴史を様々な視点から学ぶことができる弘前大学の人文社会科学部に変更しました。

3. 勉強・受験勉強について

〈勉強の取組みについて〉

- 1年生：大学受験を意識した勉強はあまりせず、定期テスト前だけ勉強をしてそれ以外は最低限の勉強しかしていませんでした。
- 2年生：英語が取れないことに危機感を感じ、単語や文法の勉強を始めました。それ以外の教科も少しずつ勉強をしましたが、毎日まとまって勉強するのではなく、不安定な時間で勉強をしていました。
- 3年生：英語や数学が足を引っ張り、大学の判定が上がりなかったためその二教科を中心に勉強を毎日習慣化していきました。とにかく演習をこなしていくうちに問題に自然と慣れていくことができるようになってきました。また、必ず落とさない問題を決めて自分の得意をより伸ばしていくことができるように勉強してきました。

〈受験勉強について〉

1、2年生のうちは苦手な英語に力を入れていました。当初はどう勉強していいのかわからずただただ問題を解いていました。しかし、友達からの助言でわからない英単語を100語暗記してみたところ一気に長文が読めるようになり、単語の重要性に恥ずかしながらこの時になって気づきました。そこからは単語の暗記と英語の長文の問題をとにかく解いていき、問題に自分を慣らしていきました。また3年生からは得意な国語、日本史、政治経済をよりとれるようにするために毎日必ず時間をとり、特に日本史では自分なりに歴史の年表を作ることによって、歴史の流れをつかめるようになりました。数学は何よりも分からない問題を繰り返し解いて忘れないようにし、頭の中で問題の形式を見ただけで解き方が浮かんでくるくらいまで勉強しました。

また、私は塾に行っていないため基本的に自宅で勉強をしていましたが、スマホやゲームなど誘惑に負けてしまうことがあり、集中して勉強することが出来ていませんでした。そのため誘惑がなく集中できる場所を探して勉強をしていました。私は自宅の仏壇がある部屋に机を移動して集中できるようになり、成績も伸びたため、学習環境を変えてみて自分が本当に集中できる場所を見つけてみることも必要なことだと思います。

4. 試験について

〈共通テストについて〉

総合型選抜を使ったものの、初めから共通テストで入学できる点数、そして国語、英語、日本史、政治経済で7割をとることを最終目標にしていました。試験前には共テ形式の問題をたくさん解き、教科ごとに問題の優先順位を決めて確実に取れる問題を増やしていきました。本番では取れない問題は早々に飛ばし、解ける問題を優先的に解くことを意識していました。終わった後は振り返りをせず、次の教科に集中して栄養補給や勉強をしていました。時間配分は完璧とは言えませんが模試と同様に冷静に問題に対処することが出来たと思います。

〈個別学力・私大・総合型選抜・学校推薦型選抜の試験について〉

総合型選抜は小論文と面接の2つがありました。小論文は担当の先生に添削してもらいながら何度も書きました。小論文は何度も書くことによって正しい話の進め方がつかめていくと思います。また小論文のテーマは最近の社会問題や流行が含まれた問題が出るので日ごろからニュースを見るなど社会情勢を良く知っておくことも一つの対策になると考えます。面接試験はとにかく練習をして慣れる、そして自分の気持ちや思いを言葉にできる能力が重要になると思います。面接ははじめ言葉に詰まり、焦ってしまうこともあると思います。そんなときこそ自分が本当にやりたいことや伝えたいことを見つめなおして調べたり、ノートに書くことによって自分の言葉に徐々にしていくことでずらずらと言えるようになると思います。また、面接試験で最も重要なことはその大学のアドミッションポリシーを暗唱できるようになるまで理解することだと思います。アドミッションポリシーはその大学が欲しい学生像を表しているため、いわば受験のヒントになるものです。その学生像に自分が当てはまっていることを面接で強くアピールすることによって、合格できる可能性は大いに高まると考えます。とにかく私はこの大学に入学してこういうことがしたい！という強い思いを自分の言葉で示すことがなによりも重要だと思います。

5. 後輩へのアドバイスやメッセージ

総合型選抜は学習以外に自分がこれまで行ってきた活動や情熱を注いだ分野のことを最大限活かせる受験形式だと考えます。そのため、大学で学びたいことが明確に固まっている人や自分が興味のあることに対する思いは誰にも負けない！という強い気持ちがある人に向いている形式です。このことを踏まえて私は後輩の皆さんに伝えたいことは、今のうちに様々なことに挑戦したり、学びたい分野の探究活動を行ってほしいということです。3年生には驚くほど時間がなく、あっという間に試験が近づいてきます。だからこそ今時間があるうちにこれからの自分に役立つ活動に積極的に挑戦し、未来の自分のために投資をしてほしいです。このような経験が後々、志望理由書や活動報告書、面接に対して力を発揮してくると思います。

最後に総合型選抜で合格するためには、より多くの経験や知識、そして興味関心があることへの強い情熱が必要だと思います。夏休みから対策をするなど長期戦になり、心が折れそうになるかもしれませんが、決して自分のやりたいことややりたい姿を見失わないでください。最後まで自分を貫くことが出来た人に夢は振り向くと思います。自分を信じて頑張ってください！